

1 研究全体構想

学校教育目標の達成

研究の目指す生徒像

根拠を基に論理的に考えることができる生徒
考えたことを相手に伝えることができる生徒
話し合い活動によってお互いの考えを深めることができる生徒

研究主題

学力の向上を目指す授業の創造
～各教科の特質に応じた言語活動の充実を通して～

思考力

判断力

表現力

言語活動の充実を目指した授業改善

何のために

どのような言語活動を

どの場面に

「言語活動の充実カリキュラム」の作成
授業形態や指導方法の工夫
学習規律の確立
KJ法による授業研究

読む

書く

話す

聞く

聞く力を伸ばす（聞き取りスキルアップ）
話す力を伸ばす（短学活のスピーチなど）

校内掲示を充実させる
あいさつを活発化させる（ワンストップあいさつ）

言語環境の整備

家庭との連携

（ 保護者へのアンケート リーフレット『学びの習慣化』 ）

研究組織

校長

教頭

研究推進委員会
（校長、教頭、教務主任、研究主任、各部チーフ）

全体研修会

学習指導研究部

言語環境研究部

情報収集研究部

事務
図書支援員

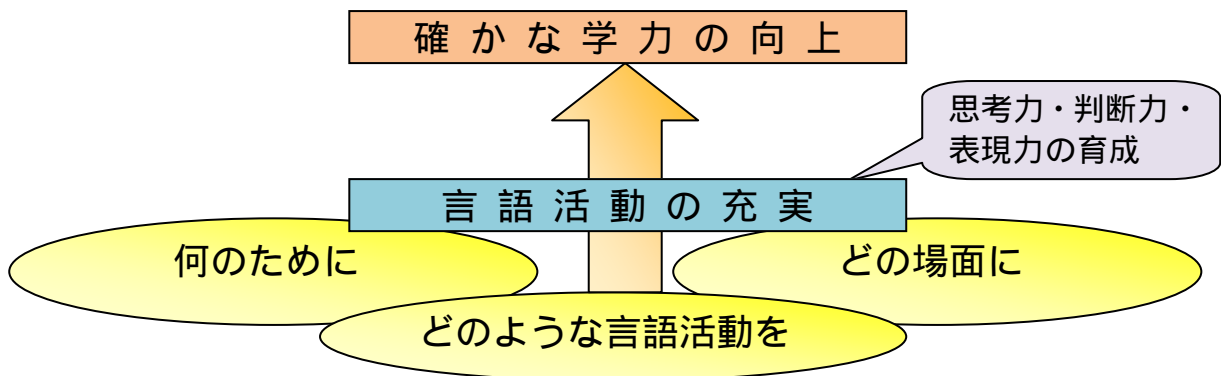
P T A 諸機関
外部関係機関

2 授業改善のポイント

1 「言語活動の充実」とは

各教科の目標を実現するために、意図的・計画的に言語活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力を高めること

2 言語活動の充実を図る授業の構想



各教科の年間指導計画を見直した。
 各教科の「言語活動の充実カリキュラム」を作成した。
 指導案に「どの場面に 何のために どのような言語活動を」と明記するようになった。

3 「論理的な思考力の高まり」のための授業イメージ

導 入	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">本時の「ねらい」</div>
展 開	<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; margin: 0 auto;">思考・判断</div> <p style="font-size: small; margin: 5px 0;">・課題解決のために個で考える。 【生徒像】根拠を基に論理的に考えることができる生徒</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; margin: 0 auto;">表 現</div> <p style="font-size: small; margin: 5px 0;">・考えた内容を表現する。 【生徒像】考えたことを相手に伝えることができる生徒</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; margin: 0 auto;">思考・判断</div> <p style="font-size: small; margin: 5px 0;">・再度、個で考える。(論理的な思考力の高まり)</p> </div> <div style="margin-top: 20px; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; margin: 0 auto;">話し合い活動 = 「論理的な思考のやり取り」</div> <p style="font-size: small; margin: 5px 0;">【生徒像】話し合い活動によってお互いの考えを深めることができる生徒</p> </div>
ま と め	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">本時の「まとめ」</div>

上のイメージ図では、1時間の授業の中に「思考・判断」(個で考える場面)「表現」(話し合い活動)「思考・判断」(再度、個で考える場面)が含まれている。
 場合によっては、例えば、1時間目 = 「思考・判断」(個で考える場面)、2時間目 = 「表現」(話し合い活動)、3時間目 = 「思考・判断」(再度、個で考える場面)ということも考えられる。

4 仮説2と言語環境研究部の研究

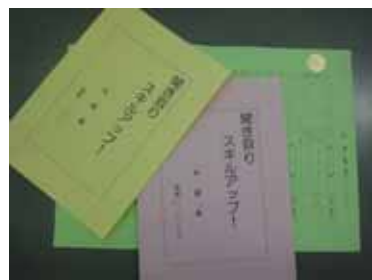
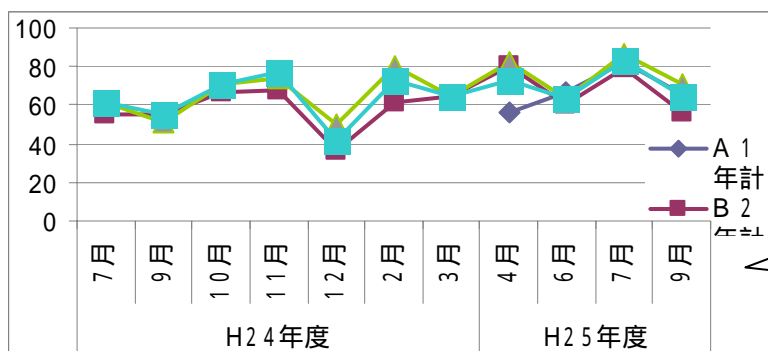
仮説2

学校生活全般において、掲示物を充実したり読書活動を推進したりするなど、言語環境の整備に努めれば、生徒一人一人が言葉に触れる機会が増え、生徒の言葉の力を高めることができるであろう。

検証方法

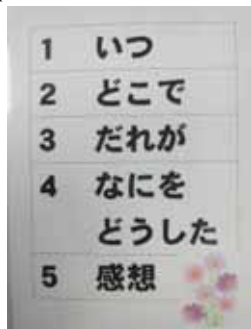
- 聞く力を伸ばす取組（聞き取りスキルアップ）
- 話す力を伸ばす取組（短学活でのスピーチやニュース発表）
- あいさつを活性化させる取組（ワンストップあいさつ）
- 校内掲示を充実させる取組

聞く力を伸ばす取組（聞き取りスキルアップ）
目標達成率のグラフ



「事実や考えを読み取る」ことの達成率が低かったため、同じ目標の問題を繰り返し出題し、聞く力を伸ばすようにしている。

話す力を伸ばす取組
(短学活でのスピーチやニュース発表)



スピーチシートを手掛かりに、みんなの前でスピーチをする。



あいさつを活性化させる取組
(ワンストップあいさつ)



校内掲示を充実させる取組



生徒会活動（文化部）のみならず、各教科からの掲示物もある。生徒は興味を持って目を通している。

全職員が、読み聞かせをしている。



5 仮説3と情報収集研究部の研究

仮説3

生徒の実態を把握するために、生徒・保護者へのアンケートを実施し、家庭学習の記録をとり、それらの分析・考察をしていけば、授業改善や家庭学習の充実につながるであろう。

検証方法

毎月15日に保護者向けの調査を行い、月ごとの変容をまとめて保護者に伝える。
生徒・保護者・職員へのアンケートを実施し、その結果を集計して考察を行う。

保護者向け 「学びの習慣化」

生徒、職員向けアンケート

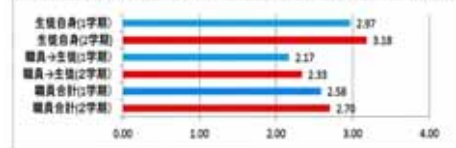
子どもの学びの習慣化に向けた
5つの提言

- 1 家で勉強する習慣
- 2 しっかり睡眠をとる習慣
- 3 朝食をしっかりとる習慣
- 4 テレビゲームなどの利用は時間などのルールを決めて
- 5 読書をする習慣

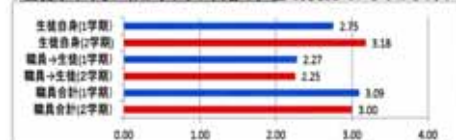
集計した結果を分析・考察し、
家庭へのお願いを含めて保護者
に伝えた。



7 生徒は先生や友達に会った時に「ワンストップあいさつ」をしていますか。(環)



8 生徒はみんなにわかりやすい内容や声量で発表していますか。(学)



6 研究の成果と課題

	成 果	課 題
仮説1	学習形態の工夫（ペア学習やグループ学習）をすることによって、生徒たちが互いに意見を交換し、考えを深められるようになった。 職員は指導案形式の工夫やカリキュラムの見直し、KJ法による授業研究などを通して「言語活動の充実」に関する理解を深めることができた。	効果的な学習を進めていくために、話し合い活動を成り立たせるための「学びの土台」作りが必要である。 生徒の表現力を更に高めるための手立てが必要である。 国語科を中心とした教科間の連携を密にして、「言語活動の充実」を展開することが必要である。
仮説2	聞く準備（心の準備や切り替え）ができるようになった。 生徒と共に職員自ら掲示物の充実に努めた結果、興味・関心を持って読む生徒が増えた。 図書貸出し冊数が増加した。	原稿を見ずに自分の意見や考えをスピーチできるようになったが、話の内容を論理的なものにしていく必要がある。 あいさつも全体的には向上したが、個人差が見られるので、更なる指導が必要である。
仮説3	家庭学習の習慣化ができている生徒数は徐々に増えてきた。 アンケート結果を、新たな取組（聞き取りスキルアップなど）に生かすことができた。	家庭学習の習慣化は徐々に定着してきているが、これからは内容を充実させることが課題である。
全体的に	生徒の中に、「読む・書く・話す・聞く」といった言語活動を意識した学習が浸透してきた。 職員の中にも、「言語活動の充実」を意識した授業作りが浸透してきた。	「言語活動の充実」が目指す「思考力・判断力・表現力」の向上が徐々に見られてきた。 今後更に「基礎的・基本的な知識・技能」を高め、更に充実した話し合い活動ができるよう力を入れる必要がある。